

昭										年	月	日	略	歴	摘要	
20	19	19	19	19	18	18	18	18	18							
1	6	6	1	1	12	12	12	11	11							
25	26	25	6	5	30	10	9	30	10							
<p>「キンパロン」三峯間の道路建設及び陣地掘削に従事</p> <p>に従事</p> <p>「ネグロス島バコロド」に転進飛行場設定作業に従事及び空襲に依る痕補修作業</p> <p>飛行場設定に従事</p> <p>飛行場設定に従事</p> <p>「バナイ」島「サンホセ」上陸</p> <p>「マニラ」港出発</p> <p>第三野戦飛行場設定司令部に於て編成完結</p> <p>「マニラ」港上陸</p> <p>門司港出発</p> <p>陸軍航空本部に於て仮編成</p>																

才一二特設野戦飛行場設定隊 略 歴
 (威才二四〇一部隊益満隊)

	2020
	8 3
	30 29
<p>「ネグロス島」作戦参加</p> <p>「バコロド」に於て米軍収容所に入る（損害程度七〇％）</p> <p>部隊長</p> <p>鉄道官 益満 要</p>	

1222

											昭
20	20	20	19	19	19	19	18	18	18	18	年
1	1	1	10	4	2	1	12	12	12	11	月
23	22	6	16	8	4	8	26	21	3	1	日
<p>「エチャゲ」南飛行場補修工事、第四飛行師団長の指揮下に入る</p> <p>「エチャゲ」転進</p> <p>「マニラ」集結</p> <p>第四航空軍司令官の指揮下に入る</p> <p>「リパ」「サントトリビオ」「マルバル」各飛行場設定開始</p> <p>「カロカン」飛行場設定開始</p> <p>第一四方面軍経理部長の指揮に入る</p> <p>「マニラ」地区航空要塞地区に展開「マリキナ」飛行場設定</p> <p>「マニラ」港上陸</p> <p>門司港出発</p> <p>埼玉県大和田に於て編成完結</p>											略
											略
											摘要

才一三特設野戦飛行場設定隊 略 歴

(威才二四〇一部隊宮田隊)

	20	20	20	20	20
	9		8	6	3
	17		20	17	4
<p>隊長</p> <p>技師 宮田隆一郎</p>	<p>「カニールバン」に於て米軍収容所に入る（損耗程度五〇％）</p>	<p>「リバ」飛行場補修開始</p>	<p>「マルバル」飛行場設定を開始す</p>	<p>「サント、トリビオ」飛行場設定を開始す</p>	<p>「ルバ」地区飛行場設定並に補修に任ず</p>
					<p>建設団長の指揮下に入り「バカバツク」に転進、 勤兵団長の指揮下に入る臨時第二歩兵大隊に編入</p>

昭										年	月	日	略	歴	摘要	
19	19	19	19	19	18	18	18	18	18							
9	9	1	1		1	12	12	11	11							
12	1	11	5		1	23	20	25	18	10						
<p>陸軍航空本部に於て仮編成 同所出発 門司港出発 比島「マニラ」港上陸 第一四方面軍司令部に於て編成完結 「マニラ」港出発（本隊隊長以下三七名） （支隊三枝隊長以下二〇名）</p>												才一五特設野戦飛行場設定隊 略 歴		(成才一六〇〇の四部隊一の谷隊)		
<p>「セブ島」「セブ」上陸「マクタン島」飛行場設定に従事 「ミンダナオ」島「ダバオ」上陸「ラサン」飛行場設定に従事 「ダバオ」対空戦弾痕補修に従事 「マリタン」対空戦弾痕補修</p>																

	20	20	20	19	19	19	19
	9	4	2	10	10	9	9
	2	22	1	21	20	26	25
除された後米軍収容所に入る（損害三〇％）	停戦に伴い戦闘行動を停止し爾後生存者は「セブ」及び「ラサン」に於て武装解除	「セブ島」警備司令官の指揮に入る	米軍「セブ島」上陸の為地上戦闘参加	「ダバオ」防衛未陣地構築及び道路構築並に地上戦闘に参加	「ラサン」飛行場整備完了	「マリタン」対空戦並に飛行場弾痕補修並に攻防戦	「マリタン」飛行場設定工事完了

						昭	年 月 日	才一特設工兵隊飛行場設定隊 略 歴
21	21	21	20	20	20	20		
4	4	2	12	11	10	10		
24	17	25	12	20	14	10	日	略 歴
<p>連合軍の命令に依り西貢において、第一四三飛行場設定隊を主力とし陸上勤務第六 第六八中隊、第一、第三航空通信隊、第二三、第一二六飛行場大隊等より転入 して第一特設工兵隊飛行場設定隊臨時編成完結 西貢飛行場に前進連合軍命令に依り同飛行場の作業に従事 臨時編成第一大隊解散により原態勢に復帰 高橋大尉以下八一名は陸上勤務第六八中隊に転属 仏軍の指揮下に入る 全作業を中止し西貢に集結 内地帰還のため「サンジャク」港出発 大竹港上陸</p>								
								摘要

	昭
	21
	4
	25
	復員
部隊長	
大尉 白倉	
馨	

1229

<p>昭 19</p>	<p>年</p>	<p>才二航空軍臨時飛行場設定隊 略 歴</p> <p>(羽才一六六八四部隊)</p>			
<p>20</p>	<p>月</p>			<p>5</p>	<p>日</p>
<p>12</p>	<p>11</p>			<p>10</p>	<p>略 歴</p>
<p>才二航空軍作命により在滿各部隊へ飛行場大隊建築勤務中隊陸上勤務中隊等より差出しの人員資材をもつて編成着手</p> <p>滿州奉天省海城において編成完結</p> <p>直ちに左のとおり展開飛行場設定作業に従事</p> <p>本 部 海城</p> <p>才一小隊 遼陽</p> <p>才二小隊 鞍山</p> <p>才三小隊 嫩江</p> <p>左のとおり移動し、飛行場設定作業を続行</p> <p>本 部 海城地区</p> <p>才一小隊 奉天地区</p>		<p>略 歴</p>	<p>略 歴</p>		
<p>摘要</p>		<p>摘 要</p>	<p>摘要</p>		

		昭	自	至
		20	20	20
		8	8	9
		15	23	2
才二小隊	奉天地区	才三小隊	嫩江地区	停戦
				各所在の地点において武装解除
				部隊長
				中尉 小田清一

1231

昭										年	月	日	才 一〇 航空教育隊 略歴
20	19	18	18	18	18	18	18	18	18				
3	10	10	10	10	10	10	10	10	10				
13	10	18	17	10	7	7	6	3	1	昭和一七年軍令陸甲才三一号により編成着手 編成完結	略	歴	
<p>昭和一〇年軍令陸甲才二七号及び陸軍機密才九二号に基き才一〇航空教育隊復 帰完結</p> <p>台湾竝に南西諸島に於ける防衛戦斗に参加</p> <p>屏東着</p> <p>台湾高雄港上陸</p> <p>門司港出發</p> <p>太刀洗出發（地上部隊）</p> <p>台湾屏東着</p> <p>部隊移駐のため太刀洗出發（空中輸送）</p>										摘要			

						昭	年 月 日	才二航空軍才一教育隊 略 歴	(羽才一六六一三部隊)	略 歴
						18				
				20	8	8				
	8	8	8	8	8	15	略 歴	略 歴	略 歴	
	22	19	17	15	9					
<p>昭和一八・七・二一軍令陸甲才七一号に依り公主嶺に於て関東軍航空 下士官候補者隊の人員資材を基幹として本部及び七ヶ中隊をもつて臨 時編成完結</p> <p>日ソ開戦に伴い被教育者は原隊に復帰させ、部隊人員をもつて駐屯地 公主嶺附近の警備を行う</p> <p>停戦</p> <p>部隊は南下の目的を以て鉄道輸送に依り駐屯地公主嶺出發 奉天に於てソ連軍のため停車を命ぜられ下車せしめらる</p> <p>奉天、文官屯及び平羅堡に於て武解、その後奉天東北大学及び北陸大 学に設置せるソ連軍管轄の収容所に入る</p> <p>部隊長</p> <p>中佐 光延 克郎</p>						摘要				

1235

										年 月 日	支那派遣才一航空教育隊 (隼才一六二二部隊) 略歴	
												略
昭									18			
20	3	9	9	8	2	2	10	10	9	30	摘要	
	10	4	3			28	10	7			<p>南京に於て本部及び二箇中隊編成完結</p> <p>南京出發</p> <p>河北省大興縣南苑に移駐</p> <p>南苑に於て二箇中隊編成完結</p> <p>才五航空軍の戰鬥序列に入り支那派遣軍總司令官の隷下を脱す</p> <p>才五航空軍司令官の隷下を脱し支那派遣軍總司令官の隷下に復し才五航空軍司令官の指揮下に入る</p> <p>石門移駐のため南苑出發</p> <p>河北省石門市に移駐旧砲兵隊及び戦車隊兵營を常駐地と定め航空教育の各施設を設備す</p> <p>才五航空軍司令官の隷下に入り支那派遣軍總司令官の隷下を離脱す</p>	

								昭 20							
	21							9							
	1	1	12	12	12	11	11	1							
	19	14	19	10	4	25	1	1							
部隊長	佐世保上陸、復員	塘沽乗船	後発たる三浦少佐以下は石門を出発、天津に於て乗船待機す	佐世保上陸、同日復員	才二才三中隊並びに出中隊の先発合計一〇〇六名塘沽乗船	教育隊主力即ち本部才一中隊才四中隊転入の情報隊才三中隊全員及び	て残置すへ接収業務未了のため)	の航空情報隊才一中隊出中隊長以下一〇〇名合計二五〇名を後発とし	本部三浦少佐以下約一〇名才二、才三中隊中隊長以下各一二〇名転入	〇名計約五〇〇名一月一四日才三航空路部下士官以下七名を教育隊	に転属編入す	中の兵約六〇名を当隊に転属編入す	在石門第二二航空情報連隊の才一中隊約二〇〇名同才二中隊約三〇	助教として各隊より分遣中の者、更に勤務兵として各隊より増加派遣	終戦後の人員整理として当隊に教育分遣中の修業者七〇〇名及び教官
中佐	国井正男														

			年 月 日		
	昭 18	昭 19	昭 18	昭 19	昭 20
	7	8	8	8	8
	21	1	25	15	15
南方軍才一航空教育隊 略 歴					
(昭才一一〇五六部隊)					
略 歴					
摘 要					
<p>軍令陸甲第七一号により第三航空軍第一教育隊臨時編成下令 馬來半島、昭南において編成完結 爾後同地に於て航空教育に任ず 昭和一九年七月二五日軍令陸甲第九四号により第三航空軍第一教育隊を 南方軍第一航空教育隊と称号変更 爾後教育任務を続行す 昭南において停戦 爾後武装解除、収容所に入所し、連合軍作業に従事す</p>					

1.238

	20	20	20		20	20	20
	9	8	6		3	10	10
	17	16	13		12	3	3
所	<p>「ジョネース」において武装解除大命により部隊投降「カランバン」収容所入</p> <p>「ピナバカン」着</p> <p>「バレテ」陣地撤退</p> <p>岬の防禦戦に従事</p> <p>ンチャゴ」→「ツゲガラオ」→「ゴルドン」→「バンバン」に転進「バレテ」</p> <p>团长直轄部隊となり挺進飛行第一戦隊比島派遣隊となり「アンヘレス」→「サ</p> <p>岡島大尉以下三一二名北部「ルソン」に転進主力と連絡不能となり第二挺進</p> <p>比島「ルソン」派遣</p> <p>主力博多上陸復員</p> <p>主力釜山出發</p>						

		至自					昭	年 月 日	挺進飛行才二戦隊 (鷲才一九〇三九部隊) 略 略 歴
20	20	20	2019	19	19	19	18		
5	3	1	112	12	12	11	8		
15	5	12	126	5	2	2	30	新田原において編成完結 軍令陸甲第一四六号により編成改正 新田原出発 比島「アンヘレス」飛行場着 「レイテ」挺進作戦に参加引続き各輸送に従事 一部残置し戦隊長以下主力台湾に転進 残置隊は爾後、挺進飛行第一戦隊比島派遣隊長岡島少佐の指揮を受く 主力台湾出発 新田原帰還 昭和二〇年五月二日軍令陸甲第七七号により部隊復帰	
								摘要	

								昭	年	月	日	挺進第三連隊 (威第九九四八部隊)	略	歴	略	歴							
19	19	19	19	19	19	19	19																
12	12	11	11	11	10	10	10																
25	8	15	12	11	30	25	24																
<p>編成下令</p> <p>宮崎西部才一八部隊に於て編成完結、同日再営出發</p> <p>航空母艦隼鷹乗船佐世保港出發</p> <p>「マニラ」海上陸、南方方面軍の指揮下に入る。</p> <p>才二挺進団長の掌握下に入り才四航空軍司令官の指揮下に入る。</p> <p>白井連隊長指揮せる、連隊主力及び挺進才四連隊約一ケ中隊「レイテ」島「ブラウエン」 「サンバプロ」 「ドライク」 「タクロバン」等敵飛行場挺進空挺降下作戦執行</p> <p>本村大尉以下六四名「ネグロス島」 「バコロド」飛行場挺進降下地上兵団の指揮下に入る。</p> <p>副司令部及び挺進四処留部隊と共に「マニラ」集結</p>																							
																摘要							

20	20	20		20	20	20	20		20	20	20	
4	4	3		3	3	3	3		2	1	1	
11	6	29		18	16	14	10		6	9	5	
斬込攻撃隊約一〇組王として敵砲兵陣地攻撃	朶山敵陣地攻撃	牛山敵前進陣地攻撃	才一〇師団長の直轄となり更に「バレテ」特前方斬込拠点占領	大城大尉以下約一〇〇名前線加入を命ぜられ「エチャゲ」出発、鈴鹿谷に前進	鈴鹿峠到着更に鈴鹿谷に前進	才一〇師団長の指揮下に入る	才一〇師団長の指揮下に入る	臨時遊撃隊編成着手（約三〇〇名）	久富少佐以下司令部及び挺進才四連隊と共に「コルドン」集結完了	任ず（独立行動に移る）	大城大尉以下約一〇〇名第四飛行師団長の直轄となり「エチャゲ」に位置警備に	北部ルソンに向い転進
												「マニラ」死守を命ぜられ才四航空軍司令部に集結「マニラ」中地隊に加入

	20	20	20	20	20
	9	8	8	7	6
	10	22	1	4	16
	<p>誠心山北側集結 「ピナパガン」地区転進 久富少佐戦死鈴木大尉指揮をとる 停戦の命令を受け「ピナパガン」に集結 「ヨネース」に於て武装解除され米軍の収容所に入る （注教導挺進第三連隊改称）</p>				

昭								年 月 日	挺 進 才 四 連 隊 略 歴 (鷲才九九四九部隊)
19	19	19	19	19	19	19	19		
12	12	12	12	12	11	11	10		
10	8	6	3	1	30	3		略 歴	
<p>宮崎県西部一一九部隊に於て編成完結 門司港出発 教導挺進第四連隊を挺進第四連隊と改隊 团长徳永大佐の指揮に入る 中部ルソン南「サンフェルナンド」集結 第二中隊主力を以て「ドラグ」飛行場榊原大尉以下二四名を以て「タクロバン」 飛行場種田大尉以下二四名を以て「ブローエン」飛行場に挺進を決定す 連隊主力「オルモック」挺進決行のため木下大尉以下先遣隊挺進連隊は一二、一 〇より逐次挺進一二、一六主力挺進を完了(連隊長以下四四四名)残部は牟田中 尉指揮团长直轄として南「サンフェルナンド」待機 連隊長挺進「ファトン」に於て第二五軍司令官の指揮に入り今堀部隊に配属</p>								略 歴	
								摘要	

至 自	至 自			
20 20	20 20	20	20	20
4 4	4 3	3	2	1
22 11	11 19	18	4	4
<p>一部を以て軍司令部直轄として司令部兵団司令部の急を救の事幾度、主力は「オルモック」北端に位置し今加隊軍旗を救出すること二度「オルモック」に対する斬込九十数回富に地上部隊の骨幹として奮闘す</p> <p>軍命令に依り西部「レイテ」集結を命せられ「オルモック」北端「ドンクボリ」出発転進開始</p> <p>西部「レイテカンギボット」山軍司令部判官軍司令部直轄となり大村大尉以下軍司令部直轄たりし一部を掌握「カンギボット」山附近の戦斗に参加数次の反撃戦を実行数組の斬込隊を派遣す</p> <p>第三五軍転進作戦開始連隊長以下司令部員部隊となり第一梯団出発残部は木下大尉指揮し第二梯団となり「デヨット」海岸に待機す</p> <p>「セブ」島に上陸兵団と連絡「セブ」に転進せるも敵の上陸作戦に依り更に「セブ」北端に転進</p> <p>「メデリン」より転進の為四月一〇日果結す</p> <p>軍司令部直轄のため連隊長以下二一名士民延九隻に分乗「メデリン」を出発</p>				

20	9	12	<p>残部は大村大尉指揮し玉兵団長の直轄となる 転進部隊は数度魚雷艇飛行機の襲撃を受け或は地上の戦いを為し「ミンダナオ」 (「カガヤン」)に予定の如く到着せるは参謀長と同乗連隊長艇のみにて軍司 令官以下戦死。一部は「ネグロス」島に漂着せり爾後軍司令部と行動を共にす 「タモカン」草原に於て武装解除され米車の収容所に入る</p>

昭	年	滑空飛行才一戦隊略歴	(鷺才一九〇五二部隊)								
19	月										
11	日										
20	20	20	20	20	20	20	20	20	30	略歴	摘要
8	8	8	8	9	8	8	5				
26	19	17	15	1	15	4					
<p>動員完結。第一次第二次先発隊出發次に飛行部隊も出發せんとするや第一次出發隊は中華民國温州沖に於て乗船沈没其の大部は戦死第二次先発隊は台湾に上陸せるも出撃区々にして西筑波に帰還</p> <p>部隊は小笠原作戦準備のため北朝鮮咸鏡南道咸州郡宣徳に移駐</p> <p>福生に移駐(一部残置)</p> <p>南九州唐瀬原に移駐準備中停戦</p> <p>復員</p> <p>宣徳残留部隊出發</p> <p>平安北道大橋着</p> <p>平壤着</p> <p>沙里院着</p>											

	20
	8
	31
<p>注 教導機進第五連隊改称（一九、一一、三〇）</p> <p>指揮官は部隊行動を以てする南下は困難なると知り部隊解散<small>約五反</small>井加約一〇名を 丸として南下す九月下旬始んと興南収容所に収容せられたる模様</p>	

	21	21
	10	10
	5	5
	12	12
	名古屋及び 佐世保上陸 復員	「マニラ」 港出發
		米軍收容所 に入る

1253

昭 和	19	19	19	自			年	略 歴	滑 空 歩 兵 才 二 連 隊 略 歴 (鷺 才一九〇四六部隊)	
				20	20	20				月
				19	12	12				
茨城県西筑波において編成完結 動員下令	19	12	12	19	12	12	略			
門司港出発	19	10	2	19	10	2			略	
「ルソン」島北「サンフェルナンド」上陸 捷号作戦参加	19	9	9	19	9	9				
終戦に伴い戦闘行動停止爾後生存者は所在の地点で武装解除された後米軍収容所に入る	19	12	12	19	12	12	略			
名古屋上陸、復員	19	12	12	19	12	12			略	
部隊長 少佐 高谷三郎	19	12	12	19	12	12	略			
摘要									摘要	

										昭	年 月 日	才 一 挺 進 機 関 砲 隊 略 歴
20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19		
3	1	1	1	1	12	12	12	12	12	11		
10	27	21	7	6	30	19	8	5		27	略	歴
<p>本丸陣地守備隊長柴田少佐の指揮に入らしめられ同陣地の死守を命ぜられ柴田少 山地に拠り陣地占領 「ストツチエンパーク」に移動 主力「アンフェレス」に一部「ストツチエンパーク」に到着 中部「ルソン」「クラーク」地区前進の為出発 比島「北サシラエルナンドボロ」港上陸 門司港出発 南方派遣の為下関に到着 宮崎県児湯郡川南村中里（旧西一八兵營に於て編成完結）</p>										昭和一九、一一、二一、軍令陸甲第一五八号に依り挺進第五連隊の人員、資材 を基幹として編成着手		
												摘要

1.255

	20	20	20	20
	9	4	3	3
	2	7	28	19
<p>佐の指揮を離れ振武集団長の直轄となり陣地守備戦斗参加</p> <p>第一深山陣地守備のため転進を命ぜられ同陣地守備に就き戦斗参加</p> <p>第二深山陣地守備のため第一深山陣地撤退第二深山陣地守備竝に斬込戦斗参加</p> <p>集団長の命に依り一時部隊の編成を解く(自活の為部隊員に再攻の時機迄自活せしむ)</p> <p>ルソン島に於て終戦</p> <p>終戦に伴い戦斗行動を停止し爾後生存者は所在の地点に於て武装解除された後米軍収容所に入る</p>				

至 自		昭		年 月 日	才 一 挺 進 通 信 隊 略 歴	
20	20 20 20 19	19	19 19 19			19
5	5 1 1 12	12	12 12 12			12
2	12 12 30	19	19 18	1		
<p>宮崎県西部第一二〇部隊に於て編成完結</p> <p>村川中尉以下一三五名航空母艦雲龍に乗船宇品港出発</p> <p>部隊主力日向丸、青葉丸に乗船門司港出発</p> <p>村川中尉以下乗船の航空母艦雲龍は航行中沈没し能谷曹長外一名を除き他の一三三名海没行方不明</p> <p>「ルソン」島「リンガエン」湾北「サンフェルナンド」港上陸</p> <p>「ルソン」島「クラーク」飛行場を集結完了</p> <p>「クラーク」地区防衛戦斗</p> <p>この間部隊殆んど全滅し四月上旬真尾中尉を長とし患者約一七〇名を後退せしめたるも、その後の消息不明</p> <p>部隊の残員一九名自活態勢に入る</p>					略	
					概要	

1257

	20
	9
	2
<p>ルソン島に於て終戦 終戦に伴い戦斗行動を停止し爾後生存者は所在の地点に於て武装解除された後 米軍収容所に入る</p>	

	20
	9
	2
<p>ルソン島に於て終戦 終戦に伴い戦斗行動を停止し爾後生存者は所在の地点に於て武装解除された後 米軍収容所に入る。</p>	

1260

	昭
	20 20
	8 8
	下旬 19
	大邱に向け移動中
	沙里院一部金固において「ソ」軍により武装解除

1262

昭									年	月	日	南方軍航空技術部略歴	(司才九三一二部隊)
17	17	16	16	16	16	16	16	16					
5	2	12	12	12	12	12	11	11					
		10	10	10	3	1	25	15					
を統行	主力を西貢より船船に依り転進せしむ部の根拠を「シンガポール」に置き同業務	部長以下約四〇名西貢より「シンガポール」に転進	指導援助及び技術的調査研究に従事	以後主力の根拠を西貢に置き、馬米比島細旬力田の航空作戦部隊に対する技術的	主力は西貢港上陸	飛行機による部長以下三〇名は西貢飛行場到着	主力は宇品港出発。南方軍総司令官の隷下に入る	南方派遣の為部長以下三〇名飛行機により立川出発	立川に於て編成完結	軍令陸甲第八八号に依り南方軍航空技術部臨時編制下令			
													摘要

20	20	19	19	19	19
8	1	11	7	5	5
15	7			31	25
<p>昭和一九、五、一〇軍令陸中第九三号に依り用方車航空技術部臨時編制改正下令</p> <p>編制改正完結(三六六名)</p> <p>主力を比島「マニラ」市に転進せしめ一部を「シンガポール」に置き業務続行一部は「ネグロス」島「バゴロド」地区に前赴し戦隊整備指導に任じ戦局の転移と共に「マニラ」又は「シンガポール」に転進し「バゴロド」地区には曹長以下八名残留し其後最高指揮官の指揮に入る</p> <p>以降在「ルソン」島人員は逐次台湾に移駐。移駐せる人員の大半は台湾第五航空修隊に転属せしめ、一部を台湾より「シンガポール」に帰還せしむ「ルソン」島残留人員は将校以下四〇名</p> <p>停戦に伴い「ルソン」島残留人員は戦斗行動を停止爾後生存者は所在の地点に於て武装解除された後本軍収容所に入る</p>					

年月日	略	摘要
昭 20		
4		
10		
20 4 下旬	<p>満洲において操縦教育実施のため航総密第一〇六九号により陸軍航空士官学校満洲派遣隊編成完結。</p> <p>校第二生徒隊を基幹として埼玉県豊岡町において陸軍航空士官学校満洲派遣隊編成完結。</p> <p>満洲移駐のため生徒隊本部及び各中隊毎に空輸及び地上輸送により逐次移動開始。</p> <p>空輸部隊</p> <p>豊岡出発―鮮満国境</p> <p>通過―駐屯地</p> <p>地上部隊</p> <p>伏木港に集結、伏木港出発―羅津港（又は元山）上陸―鮮満国境図們（又は安東）通過―駐屯地</p>	

陸軍航空士官学校満洲派遣隊
（羽第二五一四部隊）

略 歴

				昭
20	20	20	20	20
8	8	8	8	5
10	9	6	1	上旬
本部（材料廠含む） 海 浪 ↓ 通 化	作命によりつぎのとおり転進。	日ノ開戦、第六〇期生の先頭雄基港上陸。	舞鶴港出発。	部隊移駐完了しつぎのとおり
		豊岡本校において教育を終了した第六〇期生、満洲派遣隊に編入のため逐次	士官候補生を以て海浪において第二八中隊（地上教育隊）編成。	本 部 海 浪
			第二五中隊 海 浪（主力）および海林（一部）	材 料 廠 海 浪
			第二四中隊 平 安 鎮	第二一中隊 鎮 東（主力）および鎮西（一部）
			第二三中隊 温 春（主力）および東京城（一部）	第二二中隊 杏 樹

	20	20	20	20	20
	8	8	8	8	8
	21	18	17	15	12
復員状況	釜山着	その他の各隊は大部は安東經由釜山に向う。	関東軍命令により内地帰還のため在通化部隊、通化出発	各隊は通化の満洲派遣隊本部に集結。	停戦。
				第六〇期生の先頭、鮮満国境安東通過。	第二八中隊 海浪↓通化
					第二五中隊 海浪、海林↓通化
					第二四中隊 平安鎮↓深井子
					第二三中隊 温春、東京城↓水豊、新義州、安東
					杏樹↓泉溝 (主力)
					杏樹↓朝陽鎮 (一部)
					鎮東、鎮西↓山城鎮

<p>第一梯団 田中少佐以下六〇期生京城滞留組は二〇、八、二一、釜山出發同日、博多上陸。</p>
<p>第二梯団 第二三中隊佐藤少佐以下二〇、八、二一、釜山出發、同日博多上陸。</p>
<p>第三梯団 長、安藤少佐第二五、第二八中隊主力、第二三中隊の残部第二中隊生徒一〇名、第五八期生一一三名 二〇、八、二二、釜山出發、八、二三、博多上陸。</p>
<p>第四梯団 長、帖佐少佐第二四中隊全力、第二二中隊主力（生徒を除く） は二〇、八、二三、釜山出發、同日博多上陸。</p>
<p>第五梯団 長、生本少佐第二一中隊主力、本部材料廠の主力、第二二中隊生徒の主力、第五八期生一〇二名、二〇、八、二三、釜山出發、八、二四、境港上陸、二八、豊岡着。</p>
<p>尙、各隊共、入院患者、出張中若しくは転進時の事故者等残置者あり、又杏樹派遣隊の主力並びに海浪、温春附近の一部は満洲に残つて停戦、二〇、</p>